

会館だより



2014年6月号

No. 300

 公益財団法人 日中友好会館



目次

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展
「敦煌壁画作品展—シルクロードで結ばれた日本と中国の絆」

《日中友好後楽会》

- ・6月談話会・交流茶話会
- ・中国旅行参加者募集
- ・新規会員ご紹介

活動記録

- ・後楽寮生が日中スポーツ交流会に参加
- ・千代田区日中友好協会 花見交流会
- ・小田原ホームステイの感想
- ・「JENESYS2.0」中国中学生書道交流訪日団が来日
- ・日中青少年交流事業 第6回諮問委員会を開催

事務局通信

- ・文化事業部のご紹介

コラム

- ・日中関係…国交正常化の原点に返ろう
(公財)日中友好会館 顧問 谷野作太郎
- ・理事長のツイッター

会館行事と人の動き

表紙

「敦煌莫高窟壁画」(第276窟 北壁 說法菩薩) 現状模写 台東区所蔵
日中友好会館美術館にて6月10日～7月2日開催の「敦煌壁画作品展」で展示いたします。
※詳細は本誌2ページをご覧ください。

行事案内

日中友好会館美術館

主催展「^{とんこう}敦煌壁画作品展 シルクロードで結ばれた日本と中国の絆」

中国甘粛省の西端に位置し、シルクロードの要衝として栄えた街・敦煌（とんこう）。この地では4世紀から約1000年にわたり仏教石窟の造営が続けられました。敦煌莫高窟（ぼっこうくつ）に現存する石窟内には多くの壁画や塑像が残されており、「仏教芸術の宝庫」と呼ばれる煌（きらめ）きは今も人々を惹きつけています。

本展では、欠損や剥落もそのままの形で写した精緻な「現状模写」や、敦煌壁画にインスピレーションを受け制作した「創意模写」など、さまざまな種類の貴重な模写作品を展示します。



敦煌莫高窟壁画 第420窟
西壁 北側菩薩 現状模写
(台東区所蔵)

会期：6月10日(火)～7月2日(水) 時間：10:00～17:00 入場料：無料 休館日：なし
主催：公益財団法人日中友好会館 協力：台東区
後力：中国駐日大使館、東京藝術大学、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、
(一財)日中文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、(社)日中協会

同時開催イベント

ギャラリートーク 日時：6月10日(火)14:00～(約30分) 会場：日中友好会館美術館
講師：韓 衛盟（敦煌研究院館員、東京藝術大学大学院在籍）

講演会&茶話会「敦煌研究院の古代壁画保護研究の現状」会場：日中友好会館 B1 階大ホール
講師：傅 鵬（敦煌研究院館員、東京藝術大学大学院客員研究員）

日時：6月17日(火)14:00～16:30 (予定) 参加費：500円(資料、茶話会代込) **※要事前申込**



壁画の修復の様子

中国敦煌莫高窟や中国重点文物石窟の保護研究管理のために設立された国立機関「敦煌研究院」保護研究所の館員を講師にむかえ、古代壁画の保護研究の現状と最新技術についての講演会を行います。講演後には、講師と参加者による交流茶話会を開きます。現在、保護研究に携わっている中国の専門家から直接話を聞ける貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

ミュージアムミニコンサート 出演：蔣 婷(琵琶奏者) 観覧無料 **※要事前申込**
日時：6月24日(火) 14:00～(約40分) 会場：日中友好会館美術館内
*座席数50。事前申込数が定員に達しない場合のみ、申込の無い方も着席可。立見可。



【お申込みについて】 は事前申込不要、参加費無料。 _____ は事前申込必要。

ご希望の方は(公財)日中友好会館文化事業部まで、電話かFAX、もしくはe-mailにて参加ご希望イベント名、氏名、住所、電話番号(携帯電話番号)をお知らせの上、お申込みください。(お電話でのお申込みの受付は、平日9～17時。 申込締切：各イベント開催の1週間前。お申込み多数の場合はご希望に沿えないこともありますので、予めご了承ください。)

【申込み・問合せ】 (公財)日中友好会館 文化事業部

電話：03-3815-5085 FAX：03-3811-5263 メールアドレス：bunka@jcfcc.or.jp

日中友好後楽会

6月談話会・交流茶話会

日時：6月17日(火) 14:00～16:30頃
(茶話会を含む)
会場：日中友好会館地下1階大ホール
参加費：500円

今回の談話会は、同時期に1F美術館にて開催中の「敦煌壁画作品展—シルクロードで結ばれた日本と中国の絆」展(詳細は2頁を参照)の関連企画として一般公開する特別版です。後楽会会員、寮生に加え、一般の方も参加します。

敦煌莫高窟や中国重点文物石窟の保護研究管理のために設立された国立機関「敦煌研究院」保護研究所の館員である寮生の傅鵬さんを講師にむかえ、古代壁画の保護研究の現状と最新技術についての講演を行います。専門家より、壁画保護修復の最新技術を余すところなく紹介します。

講演は午後2時から約90分間で、その後、会館内レストランにて交流茶話会を開きます。ぜひご参加ください。

中国旅行 参加者募集

日程：7月8日(火)～7月14日(月) 6泊7日
行先：甘肅省 蘭州・張掖・酒泉・嘉峪関
「河西回廊を行く 甘肅省7日間」
参加費用：会員 ¥252,000/1名
(2人一部屋利用の場合、
国際線燃油チャージ代別)
詳細はお問い合わせ下さい。

今回は古くよりシルクロードの交易路として栄えた「河西回廊」の史跡と自然を訪ねます。「甘肅省といえば敦煌」というイメージがありますが、今回行く地域も仏教遺跡や砂漠が作る自然風景など見どころがとて多い神秘的な地方です。なかなか自分では足を延ばさない地方だと思いますので、ぜひこの機会にお誘い合わせの上ご参加ください。

まだ定員に余裕がありますので、ご興味のある方はお問い合わせください。

新規会員ご紹介

2014年4月ご入会

片山 勇さん、小倉 孝子さん (入会順)
どうぞ宜しくお願いします。

【後楽会 申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林、緒方、大竹

電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263

メールアドレス：kourakukai@jcfec.or.jp

活動記録

後楽寮生が日中スポーツ交流会に参加

中日民間文化体育交流を積極的に促進し、中日両国の人々の友好的な交際を推し進め、お互いの理解を増進させ、友情を強くさせるため、2014年4月20日、NPO法人東京都日中友好協会と北区日中友好協会が開催する“日中友好体育交流会”が北区滝野川体育館で成功裏に行われました。後楽寮から20人近くの寮生と日中友好協会の数十名の中日友好の人々が今回の交流会に参加しました。



参加者全員で記念撮影

午前10時、中日両国の国歌が流れ、日中スポーツ交流会は幕を開けました。そして東京都日中友好協会代表が「体育交流活動は単に身体を鍛えるだけではなく、お互いの理解をさらに深めることもできます。双方の友情を増進させ、さらに積極的に中日両国の友好共同事業関係の発展を推し進めることにつながっています。今回の活動を通じて両国人民の互いの理解を深め、友情を増進させ、信頼を築くことが望まれます。」挨拶されました。

みんなは日本側のコーチの指導の下、簡単な準備体操の後で、“友情第一、試合は第二”の原則に基づき、バドミントン、バレーボール、卓球ならびに太極柔力球などをコートで

自由に組み合わせて試合をしながら、技術を切磋琢磨しあいました。コート選手たちとそれを取り囲む応援団は打ち解けて楽しい様子で、常に喝采があがっていました。館内はみんなの歓声や笑い声で満ち満ちていました。



準備体操は「北区の歌」に振付けられた「さくら体操」

4時間にも及ぶ体育交流会で、皆は球技の技術を切磋琢磨し合っただけでなく、更におのおの中日文化の見解を交流しあいました。

後楽寮寮生たちは「今回の体育交流会はとても有意義なものでした。東京都日中友好協会と北区日中友好協会の皆様に感謝します。みなさんは相互交流の土台を作り上げました。今後も引き続き各種交流活動に継続して参加することを希望します。」と感想を述べ、日本側の友人たちも「このような交流の機会があり、とてもうれしく思います。またこのような活動を通じて、中国の留学生たちと日本の友人の交流の橋渡しが促進されることを希望します。」と述べました。

たくさんの良い友達ができ、体育交流会は盛大な中日友情交流会へと変わりました。

(後楽寮寮生委員会)

千代田区日中友好協会 花見交流会

2014年4月6日、東京都千代田区日中友好協会に招いていただいて、留学生事業部の陳先生と後楽寮寮生一行15名は千代田区日中友好協会の会員と一緒に昼食をし、桜クルーズをしてきました。

午前11時半に、日本の友人が予約したレストランで集合し、記念すべき地図や2020年東京オリンピックのバッジをもらいました。食事の前に、日中友好協会田辺理事長から挨拶をいただきました。理事長は「桜はそろそろ見頃が終わりますが、船でみんなと一緒に花

見するのもいいことです。中国と日本は近くて遠い国です。政治の面においてはあれこれありますが、『一衣帯水』の両国人民はやはり友好を続けるべきです」と言いました。

また、千代田区日中友好協会理事の松本洋一郎先生もあいさつをしてくれました。松本先生は、周恩来がかつて勉強していた東亜高等予備学校の創立者・松本亀次郎氏の孫で、今までも日中友好のために努めてきた尊敬すべき先生です。

簡単な食事の後、私たちは千代田区区役所にある防災船着場へ、船に乗りに行きました。桜の花びらが周りにあり、川の上を漂っている船を見て、みんなわくわくしてきました。

船は千代田区防災船着場から上流へ進み、茅場橋、日本橋、常盤橋などを経て、隅田川に入り、隅田川を一周回って、また神田川に入って、戻ってきました。

2時間ぐらいの道のりで、にわか雨にも会いましたが、みんなの熱情は冷めませんでした。千代田区観光協会の岡田さんは田辺理事長の依頼をうけて、案内をしてくれました。沿線にある日本橋、水道橋など橋の歴史、日本銀行などの有名な建物、花見のスポットなど、詳しく説明してくれました。

橋を過ぎるたびに、橋の上に立つ人は友好的に手を振ってくれて、みんなは手を振りかえし、「友好」という言葉に深く感動しました。また、隅田川であった高い波、アサヒビールのビルに映ったスカイツリーと本物のスカイツリーのツーショット、川を挟んだ桜の木などはみんなを魅了しました。



神田川にて

天気はそれほどよくなかったですが、友好協会の皆さんのおかげで、みんなも船での旅を存分に楽しみ、忘れられない思い出になり

ました。今回の活動を通して、より多くの日本人と接し、身近な日本文化、日本の歴史を知ることができ、とてもかいがあると思います。
(後楽寮生 呂天雯)

小田原ホームステイの感想

2014年4月4日、僕は寮生として曾文科、熊琛、宋靖、王純と一緒に神奈川県小田原市にある小嶋先生のお宅にホームステイに行きました。いろいろ貴重な体験を収穫させていただきながら、日本の文化と中日友好交流の意義も一層に身にしみてよく理解することができました。

午後6時頃、私達は鴨宮駅に到着しました。小嶋先生とお奥様（以下はお父さんとお母さんと呼びます）は改札口で私達を出迎えてくれました。お父さんは自分で自動車を運転して2回に分けて私達を連れて家に帰りました。お父さんとお母さんはすでに家庭料理としてすき焼きを私達に用意してくれました。自分の荷物を部屋に置いてから、みんなは久しぶりに再会する親族のように、盛り沢山の愉快的な夕食が始まりました。夕食では私達はお父さんとお母さんと日本の教育、宗教信仰、社会の治安状況、中医と西医、中日の文化の淵源などいろいろな話題について話しました。その中で今日本の教育状況について、教師としてのお父さんとお母さんは今の日本が全面的にアメリカの教育モデルを真似ているということに心配していました。彼たちによれば、日本の伝統的文化を新たに反省して、本当に日本人に属するものを見つけ出さなければなりません。この事こそ今の中国に対しては一番反省すべき問題ではないでしょうか。残念ながら、おそらくこの問題を真剣に考えている人は少なく、私達はもっと強い危機意識を育成すべきだと思います。その後も、みんなはにぎやかにビールを飲みながら話をしました。

2日目は朝食の後、お母さんとお孫さんが小田原城見学に連れて行ってくれました。この歴史博物館は古代の小田原城の政治、経済、文化、生活などの全貌を全面的に展示しています。私は「対歴史最大の尊重就是不要遺忘」(歴史に対しての最大の尊重は忘れては

ならないのである)という名言を思い出しました。しかし、歴史的文化財をしっかりと守らなければ、遅かれ早かれ忘れることとなるでしょう。歴史的文化財に対しての向き合い方についても反省すべきものだと言えます。

午後、私達は家に帰り、ご飯を食べた後、お母さんは私達を海岸散策に連れて行ってくれました。桜が空から舞い落ちてきて、不思議な美しさに感動しました。そして「面朝大海春暖花开」(海に向き、春に暖かく、花が咲く)という感覚も本当に体験しながら、自然の力の強さと人間の小ささも感嘆せずに行かれました。海岸から家に帰った後、お母さんと私達は酒匂神社大祭に参加しました。私たちは大祭の衣装を身につけて祭りの行列に加わりました。



お神輿を担ぐ寮生達

最後の日は朝食の後、私達は昨日に続いて酒匂神社大祭に参加しました。祭りは昼ごろで終わり、その後、懇親会が行われました。対面に座っている老人は今中国の法制状況に興味があって、僕の専門は刑法ですから、この老人と法律に関するいろいろな話題について話しました。この会話を通じて、日本の国民の規範意識、法律と道德の関係などをもっと理解することができました。

懇親会が終わった後、今回のホームステイもそろそろ終わりに近づいてきました。小田原を出発する前に、お父さんは「ホームステイはまた続くので、中日の文化のつながりも途切れることはない、私は日中友好のために自分の力を尽くすべく、両国の国民がお互いに理解される時代は必ず来ると信じています。」と私達に言いました。最後、私達はお父さんとお母さんと記念写真を撮りました。この瞬間は永遠の幸せな思い出になりました。

(後楽寮生 李世陽)

「JENESYS2.0」 中国中学生書道交流訪日団が来日



日中の学生が力強い作品を披露（日中学生書道交流展）

4月12日から4月19日までの8日間、中国中学生書道交流訪日団（団長＝程海波 中国日本友好協会・友好交流部部長）が来日した。本団は、中国北京市内の3校から選抜された書道を学ぶ中学生と引率の計33名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京をはじめ、広島県、大阪府を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感するとともに、書道をテーマに日本の青少年と交流し、親睦を深めた。

書道を通して、日中両国の深いつながりを学び、同世代同士の友情を育む

東京では、台東区立書道博物館や東京国立博物館を参観し、日本と中国との漢字・書道文化について理解を深めたほか、日本の中学生・高校生とともに「日中学生書道交流展」に参加した。会場の日中友好会館美術館には、両国学生の素晴らしい書道作品40点が展示され、揮毫交流では、両国学生たちが互いに協力し合い、一つ一つの筆運びを真剣な眼差しで見つめるなど、切磋琢磨する姿が見られた。最後には、それぞれの作品を手に笑顔で写真を撮ったり、作品を交換し合うなどした。

広島では、日本有数の筆の産地・熊野町を訪問し、筆の里工房にて「熊野筆」について学び、伝統工芸士の指導のもと筆づくりを体験した。その後、熊野町立熊野東中学校を訪問し、日本の中学生と交流した。中国中学生たちは、歓迎会で全校生徒の温かい拍手で迎

えられ、先生方や生徒会による学校の説明や授業参観を通し、日本の中学校生活について理解を深めたほか、書道を中心とした交流を行い、積極的に互いの文化を紹介し合った。交流の場面では緊張する姿もみられたが、自己紹介とともに好きな言葉を書いた書を皆に紹介したり、英語や身振り手振りでコミュニケーションをしながら、同世代同士、友情を育んだ。

そのほか一行は、浜離宮恩賜庭園では日本の春を象徴する満開の八重桜を鑑賞、広島では世界遺産の宮島・厳島神社や原爆ドームを参観した。また日本科学未来館やマツダミュージアム（広島）、広島市中工場（ごみ処理施設）、浅草寺、大阪城などを視察・参観し、包括的な日本理解に努めた。



広島・原爆ドームを参観、平和の大切さを学ぶ

これらの交流活動を通じて中国中学生からは、「日本人の笑顔、思いやり、親切に触れて、日本に対する見方が180度変わった」「自動車産業やロボット開発、ごみ処理システムなど、日本の先端技術や環境保護の意識の高さに驚いた」「日本と中国は同じ文化の背景を持ち、漢字を使い、書を嗜み、伝統文化を守っている。両国の深い繋がりを実感した」など、思い思いの感想が聞かれた。

書道交流は、ほかの国同士ではできない、日本と中国だからこそできる交流であり、今回の経験は、中学生たちの個々の学びや今後の将来の目標に、何らかの形でつながっていくに違いない。本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

（総合交流部）

日中青少年交流事業 第6回諮問委員会を開催

4月24日、当公益財団にて、日中青少年交流事業の第6回諮問委員会が開催された。



意見を述べる諮問委員

諮問委員会は、平成21年2月、当事業の適正かつ効果的な推進を図るため、外部からの視点を取り入れ、より良い交流事業を目指していくために設置された。委員は雨宮忠氏（公益財団法人文教協会会長）、石川好氏（酒田市美術館館長、作家）、高島肇久氏（株式会社日本国際放送特別専門委員）、高原明生氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）の4名で構成され、高島氏が座長を務めている。

これまで、事業実施にあたって委員各氏には、訪中団への参加や団員の推薦、訪日団の企画内容の助言、中国高校生向けセミナー講師や中国メディア関係者への基調講演など、多大な支援と協力をいただいている。

第6回諮問委員会には、諮問委員のほか、外務省から川田勉・アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官、石井智恵子・同課外務事務官、柏葉篤宏・同課研究調査員が、そして当公益財団からは武田勝年理事長、王昆中国代表理事、谷野作太郎顧問、村上立躬顧問、小島義夫事務局長、王加新総合交流部長、荻原芽総合交流部部長が出席した。

委員会では、武田理事長と川田地域調整官

の挨拶の後、平成25年度に「JENESYS2.0」として実施した日中青少年交流事業の最終実績及び予算執行状況について報告がされた。平成25年度は日中関係の影響を受け、全体の人数規模は招聘事業763名のみにとどまったが、一団あたりの人数が少なかった分、団の特性やテーマに応じて、受入訪問先の新規開拓や新しい形の交流プログラムへの取り組みなど、それぞれ特色のある、密度の濃い内容に挑戦できたことについて、感想文や団員のアンケートなども提示しながら報告された。

委員との懇談では、派遣事業再開に向けた打開策のほか、日中青少年交流事業に関する政府間の合意文書や条約締結の必要性など、事業の全面復活、安定的継続に対するさまざまな意見が挙げられた。



日中青少年交流に関するさまざまな意見が交わされる

委員会終了後は、会場を移し、総合交流部員を交えての懇親会を開催した。総合交流部員たちも、諮問委員に直接、事業を担当した際の感想や苦労話、青少年交流に対する思いなどを語り、終始和やかな雰囲気となった。

（総合交流部）

事務局通信

このコーナーでは、弊会館をより一層、身近に感じていただけるような内容をお伝えしています。今回は、文化事業部のご紹介です。

文化事業部のご紹介

文化事業部では、部長1名、職員3名が主に3つの業務を担当しています。

1つ目は、本館1階の日中友好会館美術館での企画展の開催です。開館以来25年にわたり、中国の文化機関と連携して、「国立中国美術館所蔵 貴州ろうけつ染め展」、「上海美術館コレクション展」、「清華大学美術学院展」、「山東省展」など、多岐にわたる分野の中国の芸術文化を年に3~4回紹介しています。職人や芸術家が来日して行う制作実演や作品解説も好評です。企画展の中でも、中国最大の公募展「全国美術展」の受賞作から厳選した作品を紹介する「現代中国の美術展」は、5年に一度開催され日本各地の大きな美術館にも巡回する大規模なもので、職員一同の気合いが入る展覧会です。現在2015年の開催に向けて準備を開始しています。

2つ目は、毎秋に本館大ホールで行う「中国文化之日」の企画運営です。中国の少数民族歌舞や伝統劇等の公演団を招聘し、皆様楽しんでいただいております。会館にしか企画できないような珍しい伝統芸能を招聘すべく、様々な地方に野を越え山を越え、取材に行っています。



「貴州ろうけつ染め展」の展示準備



中国文化之日モンゴル族歌舞公演



中国美術館にて日本の巡回館学芸員と
合同作品選定

3つ目の業務として、企画展以外の期間は他の美術・書道団体に美術館の貸出しを行っております。開幕式も可能です。ご用命がございましたらどうぞご利用下さい。

より面白く珍しい芸術文化を紹介したいという熱意を持って、日々研究・取材、企画に取り組んでおります。女性職員ばかりで美術館での力仕事などが大変な時もありますが、力を合わせて頑張っています。今後も様々な催事を企画しております。ぜひ弊会館の展覧会や公演へ足をお運びください。

コラム

日中関係... 国交正常化の原点に戻ろう

(公財)日中友好会館 顧問 谷野 作太郎

日中(中日)の政治・外交関係は、依然深い霧の中にあり、晴れ間が見えてこない。

42年前、当時の政治の領袖たちが、それぞれ困難な国内事情をかかえながら、それを乗り越え国交正常化の偉業をなし遂げた、その原点は何だったか。

その第一は、日中両国がそれぞれ国際和合において大きな存在感を有する中にあって、その両国が平和友好協力関係を構築することは、ひとり日・中の利益にとどまらず、それは、アジアの利益であり、世界の利益であるということ。

第二は、「反覇権」(共同声明第七項)、そして第三は、日本側は一時期の不幸な「歴史」に対する真摯な反省の上に立って日中関係を進める、中国側は、そのような日本を大きな心をもってゆるし、共に新しい中日関係の扉を開く、ということであった。

残念なことに、以上の諸点につき、第一の点についてはどこかへ押しやられ、「協力、共栄」とは逆に「互打(お互いに攻めぎ合う)、共損、共傷」の状況が続く昨今である。第二の点については、近年、口の端にもものぼらなくなり、第三点については、日・中それぞれの側で、往々にしてこれとは逆の状況がみられる昨今である。

日本と中国は、いま一度、42年前の正常化の原点に立ち返ろう。しかし、そのためには、何よりも両国の政治の領袖たちの高い志と勇気、そして強いリーダーシップが求められる。

米国のある政治家は次のように述べている。「世論に耳を傾けない指導者は、愚かな指導者。世論と共にしか動かない指導者は、平凡な指導者。真の指導者とは、志を立て、それに向けて世論を説得し、引っ張ってゆく指導者。」



1972年 日中首脳の握手



理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

友人が、馬立誠氏（元人民日報評論員）の最近の発言が中国のネット「共識網」（2014年4月14日）に載っていると教えてくれた。馬立誠は本当に懐かしい名前だ。中国の政策雑誌「戦略と管理」2002年6号（12月発行）に発表された「対日関係の新思考」は、中国国内で大旋風を巻き起こし、日本でも大いに注目された。私は、2001年6月から北京に駐在していたが、小泉総理の靖国神社参拝に反発した中国で反日気運が高まり、「政冷経熱」と言われた時期であった。中国に駐在する多くの日本人が多少とも気まずい思いをしている時に、「対日関係の新思考」は、“日本の戦争謝罪は十分であり、又、日本が再び軍国主義になる心配はない。これからは経済・市場で日本と争うべき”という趣旨のもので、中国国内におけるナショナリズムや狭隘な反日感情を批判した。その主張は冷静で堂々としており、我々にとっては干天の慈雨とも言える論調であった。裏切り者、売国奴、日本のスパイ等と言われるであろうことを十分承知の上でこのような論文を発表するとは、流石に中国にはすごい人物がいるなど感激したことを今でも覚えている。

5月5日、高村正彦自民党副総裁を団長とする日中友好議員連盟の訪中団が、張徳江全国人民代表大会常務委員長と会談した。尖閣列島や靖国神社参拝について、双方が率直に見解を述べたと伝えられている。この会談が今後どのような成果に結びつくかは分からないが、両国の国家指導者に極めて近い立場の政治家が会談したことは、我々にとって大変嬉しいことである。しかし、一方でもどかしい気持ちが拭いきれない。

ネットに紹介された馬立誠氏の発言は、12年前の主張の延長線上にあり、その中に、「中国文化の伝統は、恩沢あまねく広がり、仁者は敵をつくらず、である。」「日本はドイツの省察に学び、中国はフランスの寛容に学ぶべきである。」との一節がある。馬立誠氏の提唱する新思考は、未だ中国で主流になっているとは言えないが、一定の影響力を持っているものと思う。一昨年来、日本でも対中関係の行き詰まりを打開するため多くの傾聴すべき提言がなされている。局部にこだわらず、日本文化と歴史を踏まえて、中国人に分かりやすく、そして日本の政治指導者に“成程そうだ”を思わせるような「対中新思考」が、一日も早く提唱されることを期待したい。



会館行事と人の動き 4/1～30

会館行事

- 4/ 3、4/17 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 4/ 4～4/6 ▶ 小田原ホームステイ
- 4/ 5 ▶ 日中学院入学式
 - ▶ 寮生委員会主催花見（於：新宿御苑）
- 4/12～4/19 ▶ 中国中学生書道交流訪日団 来日
(4/13 日中学生書道交流展、4/14 同団歓迎会、4/18 歓送報告会)
- 4/21 ▶ 臨時理事会
- 4/24 ▶ 日中青少年交流事業 第6回諮問委員会

来館・訪問・面会

- 4/ 2 ▶ 中国大使館 打合せ(武田理事長、王中国代表理事)
- 4/15 ▶ 東京華僑総会 訪問 (王中国代表理事)
- 4/23 ▶ 藤沢市観光協会 福島専務理事他 来館 (武田理事長、留学生事業部)
- 4/25 ▶ 岡藤ビジネス(株)古谷賢一郎本部長、月刊中国ニュース 劉林編集長 来館 (武田理事長)

行事参加、その他の活動

- 4/ 3 ▶ 日本中国文化交流協会 辻井喬前会長を偲ぶ会 (武田理事長)
- 4/ 6 ▶ 千代田区日中友好協会 花見交流会 (留学生事業部、後楽寮生)
- 4/16 ▶ 中国大使館教育処 優秀自費留学生奨学金授与式 (留学生事業部、後楽寮生)
- 4/20 ▶ 日中友好スポーツ交流会 (留学生事業部、後楽寮生)
- 4/26 ▶ 留団協定例会 (於：横浜市国際学生会館)

